

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597340037		
法人名	医療法人 松栄会		
事業所名	グループホーム なでしこ		
所在地	山口県熊毛郡平生町大字平生村895番地		
自己評価作成日	令和5年 5月 30日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節の行事(カフェや節分会、敬老会等)、誕生日会では飾り付けや職員が仮装したりケーキのデコレーションは入居者様に行ってもらったり全体で会を作っていけるように取り組んでいます。研修面では老人保健施設と合同で行っておりケアの質の向上に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は理念に沿って、一人ひとりにあったやりたい事を見つけ、例えば男性利用者2名は毎日将棋を楽しんだり、レクリエーションなど職員のサポートで参加している。居室は自分専用のトイレや洗面台が設置され、個々に合った生活空間を確保している。医療に関しては同じ法人の老人保健施設の看護師が常駐し、24時間オンコール対応で有事の際も支援体制を整えている。災害対策では、事業所の周辺環境を把握し、話し合いを行いながら備えるよう、今後も更なる対策を進化させるために取り組んでいる。法人は職員を育てる取り組みとして、研修や資格取得を積極的に援助するなど、働きやすい環境を整備している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり」を理念に管理者、職員は日々の業務や会話の中で実践できるように情報共有している。	事業所は、ゆっくり、のんびりした支援を目指す中で、理念の意味合いを共有し、管理者と職員は実践に繋げる取り組みをしている。また気を付けているが支援時に急いでしまう場合は、理念に立ち戻り振り返りながら、研修や話し合いを行い意見交換しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの影響で地域との交流が行えていない。	地域の情報は平生町報で定期的に得ており、町内の情報は自治会長より運営推進会議の中で把握している。現状では地域行事には参加出来ていないが、利用者の多くが近隣の住民で知り合いも多いため、今後の展望として、感染症が落ち着けば知人達との交流に繋がりたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所連絡会、認知症対応型事業所連絡会に参加している。行政、各事業所担当者が集まり、情報交換を行っている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員と外部評価実施の目的について話し合いを行っていく予定。	自己評価の作成は管理者が行っている。管理者は日々の支援状況を職員から報告を受け、客観的に評価を行う事でサービスの向上のための目的を理解している。また認知症対応型連絡協議会が発行している「とまず誌」を参考にして活用している。	現在は自己評価は管理者のみが作成しているが、職員と共に話し合い意義を理解しながら評価に取り組む等、今後は次の段階につなげる弾みとなるよう期待したい。
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年12月より対面で運営推進会議を再開している。行政、地域包括支援センター、民生委員、自治会長が出席して状況報告、意見交換を行っている。	現在は書面会議で定期的に行い、市町の担当者や地域包括支援センター等、関係者が参加し意見交換を行っている。取り組み内容は日頃の支援内容やヒヤリハット、職員研修等報告だけでなく、面会に関して家族からの質問等、意見交換を行いながらサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は関係者が行っているが、現状ではこの討議内容が欠席の家族には届けられていない為、今後の改善課題の情報共有のためにも、この会議録の送付についての対応を期待したい。

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは運営推進会議や事業所連絡会などで連絡、相談を行っている。	市町へは介護保険課の担当者のもとへ、月に1回窓口に出掛け申請書類の提出や相談、運営推進会議の議事録を提出する等、日頃から協力関係を築いている。また市町の連絡協議会で行う研修案内も活用し情報を得ながら、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会に参加している。教育委員会では高齢者虐待防止について事例を用いた勉強会があり、資料を回覧して周知、意識して頂けるようにしている。	身体拘束とは何か、その影響を職員は理解している。支援の在り方についても成果ではなく、過程を重視した取り組みがある。職員は支援にあたり不適切ケアのスピーチロックにおいても、アンケートで事例をあげ話し合い拘束しない支援に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会での高齢者虐待防止の勉強会や施設内研修でも年に数回開催している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会を持っていない。今後、日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強の機会を持ちたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、料金改定、加算の新設時は書面と電話で説明を行っている。		

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口や苦情処理担当者を明記している。	電話や衣服の持ち込み時に事業所の玄関口で家族から意見を聞いている。コロナ禍において直接面会が出来ない為、家族からの要望は面会に関してのものが多。事業所は平屋のため、それぞれの居室の少し隙間ほど開けた窓越しで、家族と短い時間言葉を交わしている。今後も家族の意見を反映させる取り組みがある。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングを行っている。また、業務内でも随時相談に応じている。	事業所は働きやすい環境を作る体制はある。職員からの意見は会議の場のみならず、個人面談など様々な場面でやっている。またシフトの変更や記録の書き方、日々のケアの工夫など話し合い業務改善を行っている。職員研修や資格取得についても法人は幅広く協力している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	給与水準は法人で定められたもので資格手当等も支給されている。希望休、有給休暇取得の推進も行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回併設老健のサービス向上勉強会への出席を勧めている。法人外の研修の勧めは行っていない。	施設長は法人の医師で、定期的に事業所を訪問し職員は直接意見交換する機会がある。管理者は、全職員に平等に接するよう努めることで、職員が意見を出しやすくなるよう工夫している。管理者は業務の無駄や効率よく出来る方法を、職員と共有することで生産性向上に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設の老健掲示板に研修の案内が紹介されている。参加できていないので参加をしたい。		

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行うことでご本人の様子を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時、契約時にご家族が困っている事など聞き、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて説明し、他施設入所の候仕込みを勧めることもある。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活している関係性を築けるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際に様子をお伝えし、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努められていない。面会、外出、外泊が可能になった時はご家族に声を掛け支援に努めていきたい。	毎日の生活を通して職員は本人が希望することを把握し支援している。現状では外泊や自由な外出が出来ないため、広い敷地内を職員と共に散歩したり、老人保健施設に散歩に出掛けている。また近距離ではあるが、マイクロバスで年1～2回バスハイクでドライブを楽しんでいる。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を配慮し席を決めている。レクを通じて孤立しないよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先の事業所に介護サマリーにて情報伝達を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の視点で考えてしまいがちである。本人の思いや暮らし方の希望を把握し、本人主体にケアを展開していきたい。	日々の暮らしの中で、職員は利用者の思いを引き出せるよう努めている。外出が自由に出来ない今、積極的にコミュニケーションを図り、外出等の希望が有ればバスハイクで出掛けている。また困難な利用者には、しぐさや表情を見逃さず希望を汲み取っている。日常の家事や作品づくりを職員と行う事もある。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時に自宅へ訪問し生活環境を見させて頂いたり、サマリーからの情報等でサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に自宅に訪問し生活状況の聴取、入所後は本人様の様子を観察、把握に努めている。長谷川式、NM式も実施している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回カンファレンスを実施。本人、家族、必要な関係者の意見、アイデアはあまり反映できておらず、職員の気付きを反映したプランになりがちである。	モニタリングは半年に1回行っている。本人、家族と担当者の意見を中心にしながら、関係者がカンファレンスを行い、現状に即した計画を作成している。状態の変化がある場合は、例えば夕食後お腹がすく事がある利用者、家族から情報を得てチョコレートを少し食べる事で解決した等、改めて情報を掘り起こし介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づき、工夫等をケア記録に記入、また、連絡ノートを活用し職員間で情報共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科医師が施設に往診に来られ、施設内で診察を受ける事が可能。外部の歯科往診も契約をおこなっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	直接の交流は行えていないが、運営推進会議、事業所連絡会、認知症対応型事業所連絡会等で、行政、地域、事業者と連絡・相談し関係性を維持できるよう努めている。		

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に病院受診は希望の医療機関を受診できる旨を説明している。	協力医は、同じ法人内に常駐し、毎週月・金曜日に訪問診療を行っている。また看護師は同じ敷地内の老人保健施設に常駐しており、24時間オンコール対応している。職員は常に連携を取り、有事の対応は素早い連携を確保している。必要時には多科受診も行き、歯科は本人や家族の希望が有れば受診している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定しており、入居者に体調不良の方がおられた場合等、老健の看護師に連絡、相談し対応をしてもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、熱形表、介護サマリーを提出し申し送りを行っている。退院時にも情報提供してもらっており、関係づくりに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期に向けた指針について家族に説明し同意を得ている。	利用開始時に法人の方針で看取りは行わない事を、家族に説明し了解を得ている。重度化した場合は家族の希望を確認し、かかりつけ医の指示のもと、他の医療及び施設等を紹介している。職員は予防に重点を置き、重度化した場合は事業所の方針に従った支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故、誤薬が発生した時は事故報告書を作成。再発防止に努めている。訓練については不十分と思う。	急な発熱や誤嚥・窒息、転倒などに加え、新型コロナウイルス対応などを含め、常に話し合いを行っている。また研修で看護師から嘔吐物の処理方法や防護服の着け方など、対応の方法を訓練し職員間で共有し、緊急対応力を身につけている。	

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・通報訓練を年2回実施している。避難方法を全職員が身につけられるようにしていきたい。夜間の訓練は行えていない。	年2回の避難訓練を行っている。風水害対策は、地理的環境で海拔0mに位置しており、津波の危険性や山崩れなどを把握し、様々なパターンを想定して災害に備えている。事務所にはマニュアルを分かり易い場所に掲示し、備蓄も2～3日分を確保している。	避難訓練は夜間想定した訓練が行われていない。災害対策は事業所の環境を考慮しながら、更に話し合いを行うなど、またシフトの関係で訓練に参加の職員には、回覧などで実施内容を共有出来るよう、更には地域と協力関係が築かれるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの入居者に適した声掛けを行っている。施設内の研修でスピーチロックについての研修を受け、実践に活かしている。	利用者の生活歴を活かし、誇りを傷つけないよう支援している。また職員間で話し合いを行い、例えば声掛けのタイミングなど配慮している。接遇において親しみと慣れ合いの違いを常に意識し、年に1回研修に参加したり資料を回覧し、適切に対応するよう取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が行えるよう、声掛け、雰囲気づくりに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事、イベントで希望を受け入れている。ご本人のペースで過ごして頂いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて服装を選べるようにしている。散髪時には希望を本人に聞き、理容師に伝えている。		

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお汁をついでもらう、お盆拭き等、出来る事は行ってもらえるようにしている。	食事は3食配食を利用し、お米はこだわりの山口産を使用している。誕生日には利用者とデコレーションしたケーキでお祝いし、食事環境も利用者同士が楽しく、食事が出来るよう配置しながら支援している。外食が出来ない今は、利用者の好みに合わせてたこ焼きなど、おやつを手作りし、職員は工夫しながら支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が管理、食事量、水分量をチェックしその方にあわせた支援を行っている。水分量は1000mlを目安に摂取してもらえるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後は口腔ケアを実施している。ご自分で出来る所は出来るだけ行って頂き、難しい方は介助を行っている。磨き残しのある方は仕上げ磨きを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを見て、トイレ誘導を行っている。声掛けには配慮を行っている。	トイレは各部屋にあり、職員は利用者の排泄パターンを共有し、誘導の機会を把握し出来るだけ失禁に繋がらないよう支援している。更に便秘予防対策として、水分や食事管理、運動を兼ねた散歩にも気配りしながら、残存能力を活かした取り組みを行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操、レクなどの実施、ヨーグルト、牛乳を摂って頂くことで便秘予防に努めている。便秘が続く場合は医療職へ相談を行っている。		

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個浴でゆっくり入浴して頂いている。なるべく同性職員が対応できるように配慮している。	基本的に週2回午前中に入浴支援を行っている。支援の方法もその人に適した入浴法で行い、洗い方もその人に合わせ考慮し対応している。入浴環境も利用者ごとに湯舟に浸かる人やシャワー浴を利用したり、また軟膏やボディローションを使用する等、快適な入浴を楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のペースに合わせて対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人様の名前、日付、朝食後か夕食後かを職員2名で確認、服薬介助する際も声に出し確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションとして、ぬりえや字合わせゲーム、カラオケなどを提供している。	利用者は歌や将棋、手作り作品の作成など、また家事の好きな人には職員と共に家事作業をしている。中には縫物が得意な利用者もあり、それぞれが自由に過ごせる空間がある。また皆で行うレクリエーション行事もあり、職員はアイデアを出しながら支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑外散歩を行ったり、バスハイクを企画し外出支援に努めている。家族や地域の人々と協力までは至っていない。	現状では出掛ける事が困難で、職員は利用者が望む外出を考え支援している。日常的には敷地内を毎日職員と1対1で散歩をしながらいつもの道順で、老人保健施設やデイケアの関係者から声を掛けてもらい過ごしている。また中庭の花を摘んで持ち帰り生けている。	

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さについて、買物に行くことができれば、生活も豊かになると思う。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らは行っていないが、職員が電話し、本人様に代わりやり取りを行っている。年賀状の作成を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室に花を生けたり、空調を調節して部屋の温度に配慮している。	壁には協力して作成した手工芸や、神社を形どったものに鈴を付け、廊下とリビングを往復しながら、鈴を鳴らし散歩をしている。フローアは出来る限り物を置かないよう動線を確保している。掃除は職員が行い時々利用者が手伝うこともある。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様の思いを大切に希望に合わせて対応している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきて頂いている。写真やカレンダーなどを飾っている。	室内は備え付けの洗面台や広めのトイレがあり、ベッド、エアコン、小さ目の引き出しタンスと、出来る限り部屋を広く使うため、持参の家具は小さ目のものを設置している。入口には目線に沿った名札があり迷わない工夫を行っている。室内は大き目の窓で陽当たりが良く、掃除が行き届いている。	

自己	外部	項目 (A)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーで、廊下に手すりが設置されており、歩行に不安がある方は居室までつたって移動することが出来る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり」を理念に管理者、職員は日々の業務や会話の中で実践できるように情報共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域との交流が行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所連絡会、認知症対応型事業所連絡会に参加している。行政、各事業所担当者が集まり、情報交換を行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員と外部評価実施の目的について話し合いを行っていく予定。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年12月より対面で運営推進会議を再開している。行政、地域包括支援センター、民生委員、自治会長が出席して状況報告、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは運営推進会議や事業所連絡会などで連絡、相談を行っている。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会に参加している。教育委員会では高齢者虐待防止について事例を用いた勉強会があり、資料を回覧して周知、意識して頂けるようにしている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会での高齢者虐待防止の勉強会や施設内研修でも年に数回開催している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会を持っていない。今後、日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強の機会を持ちたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、料金改定、加算の新設時は書面と電話で説明を行っている。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口や苦情処理担当者を明記している。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行っている。また、業務内でも随時相談に応じている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は法人で定められたもので資格手当等も支給されている。希望休、有給休暇取得の推進も行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回併設老健のサービス向上勉強会への出席を勧めている。法人外の研修の勧めは行っていない。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設の老健掲示板に研修の案内が紹介されている。参加できていないので参加をしたい。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行うことでご本人の様子を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時、契約時にご家族が困っている事など聞き、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて説明し、他施設入所の候仕込みを勧めることもある。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活している関係性を築けるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際に様子をお伝えし、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努められていない。面会、外出、外泊が可能になった時はご家族に声を掛け支援に努めていきたい。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を配慮し席を決めている。レクを通じて孤立しないよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先の事業所に介護サマリーにて情報伝達を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の視点で考えてしまいがちである。本人の思いや暮らし方の希望を把握し、本人主体にケアを展開していきたい。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時に自宅へ訪問し生活環境を見させて頂いたり、サマリーからの情報等でサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に自宅に訪問し生活状況の聴取、入所後は本人様の様子を観察、把握に努めている。長谷川式、NM式も実施している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回カンファレンスを実施。本人、家族、必要な関係者の意見、アイデアはあまり反映できておらず、職員の気付きを反映したプランになりがちである。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づき、工夫等をケア記録に記入、また、連絡ノートを活用し職員間で情報共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科医師が施設に往診に来られ、施設内で診察を受ける事が可能。外部の歯科往診も契約をおこなっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	直接の交流は行えていないが、運営推進会議、事業所連絡会、認知症対応型事業所連絡会等で、行政、地域、事業者と連絡・相談し関係性を維持できるよう努めている。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に病院受診は希望の医療機関を受診できる旨を説明している。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定しており、入居者に体調不良の方がおられた場合等、老健の看護師に連絡、相談し対応をもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、熱形表、介護サマリーを提出し申し送りを行っている。退院時にも情報提供してもらっており、関係づくりに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期に向けた指針について家族に説明し同意を得ている。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故、誤薬が発生した時は事故報告書を作成。再発防止に努めている。訓練については不十分と思う。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・通報訓練を年2回実施している。避難方法を全職員が身につけられるようにしていきたい。夜間の訓練は行えていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの入居者に適した声掛けを行っている。施設内の研修でスピーチロックについての研修を受け、実践に活かしている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が行えるよう、声掛け、雰囲気づくりに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事、イベントで希望を受け入れている。ご本人のペースで過ごして頂いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて服装を選べるようにしている。散髪時には希望を本人に聞き、理容師に伝えている。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり役割を持ってもらえるよう、じゃんけん等で役割を決めて食事の準備や片付けを行ってもらっている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が管理、食事量、水分量をチェックしその方にあわせた支援を行っている。水分量は1000mlを目安に摂取してもらえるようにしている。トロミが必要な方はトロミを使用、糖尿病のある方は糖分を控える等注意している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後は口腔ケアを実施している。ご自分で出来る所は出来るだけ行って頂き、難しい方は介助を行っている。磨き残しのある方は仕上げ磨きを行っている。口腔体操を行い、口腔機能の維持、向上に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを見て、トイレ誘導を行っている。声掛けには配慮を行っている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操、レクなどの実施、ヨーグルト、牛乳を摂って頂くことで便秘予防に努めている。便秘が続く場合は医療職へ相談を行っている。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個浴でゆっくり入浴して頂いている。なるべく同性職員が対応できるように配慮している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のペースに合わせて対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人様の名前、日付、朝食後か夕食後かを職員2名で確認、服薬介助する際も声に出し確認している。服薬方法については分からないことがあれば、薬剤師に確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションとして、ぬりえや字合わせゲーム、カラオケなどを提供している。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑外散歩を行ったり、バスハイクを企画し外出支援に努めている。家族や地域の人々と協力までは至っていない。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さについて、買物に行くことができれば、生活も豊かになると思う。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は携帯電話を持参しており、ご家族と連絡を取られている。施設の電話を使用されたり、年賀状のやり取りをされている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室に花を生けたり、空調を調節して部屋の温度に配慮している。夜間は照明に気を配り、就寝しやすいように配慮している。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様の思いを大切に希望に合わせて対応している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきて頂いている。写真やカレンダーなどを飾っている。		

自己	外部	項目 (B)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーで、廊下に手すりが設置されており、歩行に不安がある方は居室までつたって移動することが出来る。歩行補助具が必要な方は使用されている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホームなでしこ

作成日

令和5年8月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	災害対策について、老健と合同で年2回避難・通報訓練を実施しているが、夜間想定 の訓練は行えていない。業務に追われ、ローテーション勤務ということもあり、実施が難しい。	夜間想定 の避難訓練が実施できる。	各ユニットのリーダーに相談する。 ミーティング等で情報を共有する。 老健にも相談する。 日時を検討する。	12か月
2	4	評価の意義の理解と活用について、自己 評価票は管理者のみが作成している。	職員全員で外部評価に取り組むことができる。	各ユニットのリーダーに相談する。 ミーティング等で情報を共有する。 項目ごとに職員で分担する。	24か月
3	5	運営推進会議を活かした取り組みについて、現在は家族の出席はコロナの関係で 出来ていない。討議内容が家族に届けられていない。	家族が出席できる。また、出来ない場合でも議事録を送る。	家族が出席できるようになれば、口頭・書面にて参加を呼び掛ける。 議事録を送付する。	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。